

# 月刊・南ア・ニュース (2009年8月)

在南ア日本国大使館

## 1. 内政関連

### ●野党連立に向け協議開始

2日、DA、COPE、UDM、IDの4政党が2011年の地方選挙に向け、連立結成の可能性について話し合いを開始した。現在は与党ANCが議会において過半数を占め、野党側の意向が反映されにくい状況にある。野党側は少しずつ協議を進めていく予定であり、ANCに対抗する一大連立政党を目指す。

### ●DA、南アの武器売却即時停止を要請

DAは、ラデベ法務大臣に南アの武器取引に関し緊急調査を実施し、人権抑圧国への武器輸送を即刻やめるように要請を行った。DA議員独自の調査によると、国連による武器禁輸措置対象国等一部の国への武器等の輸出に対し、これら輸出の是非につき判断すべき南ア通常兵器統制委員会(NJCACC)が適切に機能しておらず、リビア、シリア、ベネズエラ、ジンバブエ、北朝鮮などに弾薬や手榴弾を売却している嫌疑が持たれている。

### ●ズマ大統領、タウンシップを突然訪問

7月にムプマランガ州バルフォアのシャテンバ・タウンシップ住民が、自治体のサービス・デリバリー遅延に対する不満からタウンシップ内で暴動を起こし、市長の家に放火する事件が生じた。これを受けて4日、ズマ大統領は当地を予告無しで突然訪問、住民と対話を行い住民の抱える問題について耳を傾けた。「国民に近い大統領」の演出であったが、メディア等関係方面から評価の声が上がった。

### ●ズマ大統領、就任以来100日経過

8月半ば、ズマ大統領が就任し新体制が始動してから100日が経過した。チャバネ大統領府モニタリング大臣は、政府の優先課題である教育、保健、農村開発、雇用創出、犯罪対策の4つの事項に対する業務状況を査定し、就任以来の大統領の仕事は“so far, so good”という評価を下した。政策の実施面では、進展は遅いと指摘もあるが、「国民に近い大統領」を目指すズマ大統領の姿勢は評価されている。

## 2. 外政関連

### ●クリントン米国務長官の南ア訪問

アフリカ歴訪中のヒラリー・クリントン米国務長官が、6日から9日にかけて南アを訪問。ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣、モツォアレディ保健大臣、モトランテ副大統領、ズマ大統領といった現職の政府関係者並びにマンデラ元大統領とも会談した。7日の共同記者会見では、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣は、「南ア・米二国間関係を更なるレベルに高めていくことで合意した」旨述べたが、これは、ムベキ・ブッシュ政権下時代の冷却化した二国間関係の改善を念頭においた発言と見られている。クリントン長官も、米国は、南北の架け橋として、南アを戦略的パートナーとして位置づけている旨述べた。なお、南ア訪問に先立ち、クリントン長官は滞在先のナイロビにおいて、ジンバブエ問題の解決に向け、より厳しい対応をズマ政権に対して求める考えを示したが、GPAの迅速な実施の重要性を米側が切り出す前に南ア側より問題意識が示されたことから、本件は二国間会談において大きなイシューとはならなかった模様。米軍アフリカ司令部(Africom)に関しては特段言及されなかったが、アフリカ情勢としてスーダン及びソマリアについて意見交換が行われた。

また、米下院のバターフィールド議員及びクレイ議員がフォローアップとして20日に南アを訪れ、エブラヒム国際関係・協力副大臣やハウテン州の財務経済大臣やネル法務副大臣と貿易・投資問題に焦点を当てて話し合いを行った。

### ●アウン・サン・スーチー女史有罪判決に関する非難声明

11日、南ア政府はアウン・サン・スーチー女史有罪判決に関して、ミャンマーに対する非難声明を発表。エブラヒム国際関係・協力副大臣は、(1)南ア政府は、深い悲哀の念とともに、本判決を遺憾に思う、(2)南ア政府は、(本判決により)民主化、国造り、融和の

気運が失われたと信じるとともに、2010年の選挙に同女史が参加できるよう、同女史の即時釈放を呼びかける、(3) 南ア政府は同国の全政党関係者に対し、民主主義と政治的包括性が確保される形での協議を開始し、自由かつ公正な選挙の実施を通じて、選挙後にミャンマーが国際社会におけるその地位を確保し得るよう、呼びかける旨を発表した。

#### ●ズマ大統領のアンゴラ訪問

ズマ南ア大統領夫妻は20日から21日の日程でアンゴラに大統領就任後初の公式訪問を行った。主な行事は、ドス・サントス大統領との首脳会談、合同記者会見、午餐会、国会での演説、両国ビジネス・フォーラムの閉会挨拶、ANC戦没者慰霊碑訪問、男子バスケットボール・アンゴラ代表チームとの懇談等。中でもアンゴラの独立闘争やANC戦没者の慰霊碑訪問は、アンゴラが反アパルトヘイト時代に、ANCを支援したために当時の南ア政府から攻撃されたという歴史もあって、好意的に受け止められた。ズマ大統領には、国際関係・協力大臣等閣僚や政府関係者の他、1994年の南ア民主化以降の国賓訪問としては南ア電力公社などの政府系企業を含め、最大規模のビジネス関係者(約150人)が同行し、ビジネス関係の促進が意欲的に進められた。二国間関係強化の一環として、定期的な外交協議の実施及び航空分野での協力に関する合意の他、貿易、産業、スポーツ及び住宅に関する6種類の覚書が署名された。

#### ●ズマ大統領のジンバブエ訪問

SADC議長としての任期を終了する直前の27日から28日にかけて、ズマ大統領はSADC議長としてジンバブエを実務訪問した。ズマ大統領は、ZANU-PF並びにMDC両派の代表と面会し、GPAの実施に関する現状につきブリーフを受けた。情報筋によれば、チャンギライMDC首相の苦言を受けて、ズマ大統領はムガベ大統領に対し、政府内の重要な人事をMDCと相談の上で決める等、GPAの実施を促進するよう、これまでよりも強い態度で要求した。

なお、ズマ大統領の訪問に先立ち、南アメディアの一部はムガベ・ジンバブエ大統領の体調不良の可能性を報じたが、レセプションではムガベ大統領は元気な姿を見せた。ズマ大統領は、28日に開催されるハラレ農業博覧会にも来賓として出席。

### 3. 経済関連

#### ●経済成長

南アの第2四半期のGDP成長率は-3%となり、第1四半期の-6.4%から改善した。不況の最悪期を脱したものの、南アは92年以来はじめての3期連続マイナス成長を記録したことになる。

#### ●自動車販売

Naamsa(南ア自動車生産者協会)によると、国内新車販売台数は7月に前年同月比で27.4%減の30,731台にとどまった。これで、今年1月~7月の総販売台数は22万4,706台となり、前年同期比で32.7%減となった。輸出は貿易相手国の不況が続いているため、7月に前年同月比で60.3%減となった。ただし、国内新車販売台数は前月比では、4.3%増と若干回復を見せ、36カ月連続の自動車販売数減に歯止めがかかった。

#### ●金利

中銀は8月に政策金利を0.5%切り下げ、金利はここ3年で最低水準の7%となった。ムボウエニ中銀総裁はインフレが収まりつつあるものの、南アの世界不況からの回復は遅れていると述べた。なお、二桁台の賃金上昇、電力料金及び石油価格の値上げもあり、インフレ上昇のリスクもいまだ去ったわけではない。インフレは2010年の第2四半期によくインフレ・ターゲットの3~6%内に落ち着きそうである。

#### ●投資

外国人投資家は昨年の上半期にヨハネスブルグ株式市場(JSE)の株を40億ランド売却したのに対して、今年の上半期は380億ランドの購入へと転じた。資金流動性の回復は、先進国市場と比べてJSEのパフォーマンスの良さを物語っている。

#### ●景況感

南ア中銀のビジネスサイクル指標は7月に1.8%上昇し、これで3カ月連続の上昇となった。南ア経済は今年の終わりまでに不況を脱する見込み。同指標は各種調査、株価、南アの主要貿易相手国の動向を踏まえており、この先6~12カ月の経済動向を予測するための指標として有効である。

#### ●倒産

企業倒産は7月に前年同月比で33.8%増となったのに対して、個人破産は7月に前年同月比で49%減となり、個人は金利引き下げの恩恵を受けている。ABSA銀行は厳しいビジネス環境の中であって企業利益は引き続き厳しい状態にあると言う。12月以降5%の政策金利引き下げにも関わらず、世帯債務は可処分所得の77%と高い水準のままである。

#### 4. 広報・文化

##### ●南アフリカ初の日本人プロサッカー選手

1日、ラステンバーグを拠点とするサッカーチーム「プラチナム・スターズ」は、日本人サッカー選手・村上範和氏と契約を交わした。南アフリカのプロサッカーチームが日本人選手と契約するのは今回が初めて。村上選手は、1日に行われたテレコム・チャリティカップ（オランダ・パイレーツ戦）において前半に1点を決める活躍を見せた。試合後、スターズのスティーブ・コムフェラ監督は、村上選手はスターズの財産となる選手と確信していると述べた。

##### ●2010年ワールドカップ・チケットを地元民に配付

14日、南ア・ワールドカップ運営委員会（LOC）のダニー・ジョーダン氏とFIFAマーケティング部長のティエリ・ウェイル氏は、約12万枚のワールドカップ・チケットを同大会開催に携わる地元民に配付することを公表した。チケットはローカルコミュニティーの代表、学生、教員及びスタジアム建設作業員などに配付される予定。

##### ●世界陸上・南ア選手の800m走制覇

25日、世界陸上ベルリン大会の女子800m走を世界最高記録で優勝したキャスター・セメンヤ選手が、同じく800m男子を制覇したムラウジ選手等と共に南アフリカに帰国。ORタンボ空港には、ズマ大統領を始め約1000人の市民が集まり熱烈な歓迎振りだった。同日、セメンヤ選手は、首都プレトリアにおいてズマ大統領等とともに会見を行ったが、国際陸上連盟が性別検査を要請したことに関してはコメントしなかった。

#### 5. 警備・治安

##### ●プレトリアにおける武装強盗事件

(1) 3日、プレトリア・ローディウム地区のイスラムサービス機関のマネージャーを務め

るジーサブ氏が朝の祈祷中に腹部を撃たれ後刻死亡。また、強盗1人も被害者の兄弟に撃たれ死亡した。警察は、メイドが武装強盗の一人のガールフレンドで、裏口から強盗らをキッチンへ招き入れたと見ている。警察に近い筋によると、プレトリア周辺での住居への武装強盗事件の約80%のケースで、メイドか庭師が関わっていると見ている。実際、同筋は過去2年間ローディウム地区で発生した17件のうち13件にメイドか庭師が関係していたと述べる。

(2) 12日午前、メンリン・ショッピング・センターにおいて、4人組の男が車で到着した被害者男性にけん銃を突きつけて後部座席に座らせ、そのまま逃走しようとした。しかし、数メートル走行したところで男性が車の鍵を抜きとったため停車、同センターの警備員が容疑者1名を逮捕した。その後プレトリア地区のカージャック捜査隊がその他3名の容疑者を現場で逮捕した。同捜査隊は同日夕、マメロディ地区においてさらに関係すると見られる容疑者2名を逮捕した。

(3) 5日午前、高速道路R21沿いのアイリン・ビレッジ・モールにおいて、プロティア・コイン社（南アの大手警備会社、「プ」社）幹部が武装強盗に射殺された。強盗らはアイリン・ビレッジ・モール内の店舗を襲った後、同モールの警備員に追跡され、通報を受けた「プ」社警備員が車両で追跡に加わっていた。この幹部は、元南ア国家警察特別捜査隊の捜査官で、この日は会議に向かう途中にたまたま事件に遭遇してした。なお、同モールでは昨年10月、今年1月にも武装強盗事件が発生している。

##### ●ショッピング・センター武装強盗対策

ハウテン州で相次いで発生したショッピング・センターにおける武装強盗事件を受け、宝飾品理事会、警備産業同盟、南アバンキングリスク情報センター等の関係団体が会合を開催し、犯罪情報や防犯対策について話し合った。いくつかのショッピング・センターは、ランダムな来客の所持品検査の導入を検討している。また、関係者の中には、ショッピング・センター入口におけるゲート式やハンディ式の金属探知機の導入を主張する声もある。8月前半の2週間で、ハウテン州の7つのショッピング・センターが武装強盗に襲撃され、3人が死亡している。